

梅窓院通信

No.68
2014/01/01

青山

第4回秋彼岸写真コンクール
グランプリ受賞作品

「夜の参道」

撮影:

様

今年も第5回秋彼岸写真展コンクールの開催が
決定致しました。詳細はまた後日発表致します。

住職挨拶

梅窓院第二十五世

中島 真成



新年明けましておめでとうございませう。早いもので平成も四半世紀が過ぎ、二十六年目となりました。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年十一月十七日に先代住職、中島真哉上人の二十三日忌の法要を無事に勤めさせて頂きました。

先代は住職としては十七年ですが、先々代真孝住職のもと、副住職という立場で梅窓院を支えてこられました。そのようなことを思いながらご供養させて頂きました。

また、昨年は皆様からの要望が多かったペットの供養塔を建立致しました。名称は無礙光塔です。すでに受付を開始しておりますので、ご希望の方はご連絡下さい。

新年号は恒例の秋彼岸写真コンクールのグランプリ受賞作品を表紙写真にしています。今回は当院の夜の参道の写真となりました。お寺には昼間の明るい時にお見えになる方が多いかと思いますが、夜の参道はこのような雰囲気です。

さて、この写真コンクール、テーマを「青山」にしてみました。本年からはテーマは自由に、応募者を檀信徒の皆様と当院職員にさせて頂きます。詳細は追ってこの『青山』などでお知らせ致します。檀信徒の皆様、ご旅行先での風景写真や趣味の草花など、どうぞ気楽に応募頂ければ幸いです。

今号の特集は昨年の三か寺団参でトルコを訪れたこともあり、イスラム教の特集を組んでみました。浄土宗や仏教全般の話の合間に少し他の宗教を見聞するの、逆に浄土宗や仏教の特徴に気付かされるものです。世界の宗教別人口の推移やアジアでの各宗教国などの資料もご覧下さい。なかなか興味深いものがあります。

では、最後にこの平成二十六年という年が穏やかな一年になることを心より祈念申し上げ、年初の挨拶とさせて頂きます。

法話 仙教歳時風物詩 (24)

年送り、年迎えの心

新宿区 香蓮寺住職

勝崎 裕彦

新 年を迎えることは、まことに喜ばしいめでたいことである。年改まって、なにかもが新しくスタートする新年を迎えるためには、もちろん旧年からのいろいろな準備が必要である。さまざまな気遣い、心配りをし、用意万端が整って、はじめて迎えることのできる初春元旦の慶賀である。

今回は、日本人の生活と精神の中に深く根づき、息づいてきた年送り、年迎えの習俗を尋ねて、日本人の生活文化、精神文化の古きよき伝統を理解したいと思う。

年送りとは、新年を迎えるに当たり旧年となる今年を顧みて反省し、懺悔して身心を洗い清め、新玉の正月を迎えようとすることである。年迎えとは、年の変わり目をしっかりと受けとめて年越しをして、新しい希望を抱き、一年の計を誓約して、元旦元朝を迎えることである。

師走十二月に入ると、一年も押し詰まってなにかと忙しく、せわしい日々が続く。喜怒哀楽の一年を振り返って、その一年の月日を噛みしめることも、あるいは忘年・年忘れと称して、その一年の苦労や心配を忘れることも、年の瀬の人さまざまな思いであろう。

十二月十三日は、事始・正月事始と

いつて、正月を迎える準備に取りかかる日として、かつてはとても大切な日であった。事とは、正月の行事のことである。そして、正月の準備の最初は家の中の大掃除であり、「煤払い」という言葉で広く通っていた。大掃除は家族総出で、小さな子供までが手伝い、神棚や仏壇からはじまって家の隅々まで掃除したのであるが、これはまた掃除をする家人全員の身心を清潔にするこゝも意味していたのである。

また、この煤払い用の煤竹売りが、売り声高く町を歩いた江戸時代のありさまは、煤竹売りに身をやつした赤穂浪士の大高源吾(子葉)が俳人宝井其角と両国橋のたもとで交わした、

年の瀬や水の流れと人の身は
明日待たるるこの宝船 (其角)

という句のやりとりの場面からも偲ばれよう。元禄十五年十二月十三日、吉良邸打ち入りの前日のことである。

事始にはじまる年用意・年支度は、餅搗きや松飾り、床飾り、あるいは正月に着る晴着の準備など、まことにさまざまなものがある。

年用意なほこまこまと主婦の用 (茂雄)

島村茂雄の句に正月準備の情景の一

切を託して、歳暮のことや賀状書き、御用納・仕事納、忘年会も終わりとして古暦をめくり、やがて大晦日の夜となる。

十二月三十一日、大年・大歳の除日である。旧暦時代は十二月三十日が大つごもりであったから大三十日と書いたが、年の夜・年一夜の除夕・除夜となつて、いよいよ年越し・大年越しである。年越しそばを食べて、除夜の鐘を聞けば、この一年もとうとう終わりで、年惜しむ感懐を残して、新しい年迎えへと身も心も移って行く。

寺ふかく大満月に年移る (宋淵)

大年の常にもがもな弥陀如来 (茅舎)

今日のこと俄に遠し除夜の鐘(富美子)

中川宋淵、川端茅舎、宍戸富美子の三句を並べてみたが、いずれも仙教のもろもろにかかわる仙教俳句の範疇のものである。しかも、その心は十二月三十一日の年の内に身を置いた行く年・流るる年を見つめて思う句である。まさに百八の煩惱もおのずから消滅して、身心清らかに新年を迎えることができる次第である。

そして今、初春の初日の出を仰ぎみて、ここに正月元旦がある。どうかよき一年でありますように……。

(大正大学学長)

先代及び先々代室23回忌法要
11月17日(日)



M・ファン・デン・ワックピアノリサイタル
11月10日(日)



文化講演会
10月19日(土)



「心と体と健康」
財布と健康
生島ヒロシ氏

秋彼岸会法要・彼岸寄席
9月23日(月)



秋彼岸寄席、三遊亭歌る多師匠

十夜法要・芋煮会
11月16日(土)



第60回念仏と法話の会
10月10日(木)

九・十・十一月の

行事報告



修正会

しゅしょうえ

2014年1月1日(水)

修正会法要

午前10時～ 2階 本堂

お雑煮

午前11時～ 1階 観音堂エントランス



※お雑煮の振る舞いは元旦のみになります。
修正会に参列頂いた方から優先的に
お雑煮の振舞いをさせていただきます。
なお、数に限りがございますので予めご了承下さい。

(絵馬について)

新年のお参りに来て頂いた方にお配りしている絵馬は、元旦のみ一軒に一体のお渡しとさせていただきます。二体以上ご希望の方は事前に文書(FAXかハガキ)でお申し付け下さい。二体目から一体千円でお譲り致します。

(曆について)

各檀家さまに1部同封させて頂きました。2部以上ご希望の方はこちらも文書(FAXかハガキ)にてお申込み下さい。2部目から1部千円でお譲り致します。

新年に寄せて

今年も新年を迎えることができました。昨年の一年があつという間に過ぎてしまったように、今年の一年もあつという間に過ぎてしまいかもかもしれません。

ですが、あつという間に過ぎてしまふ一日も、一日一日を振り返ると嬉しく楽しいことばかりではなく、悲しく辛いこと、善いこと悪いこと、色々なことがあります。そして同時に私たちは一日の中で知らず知らずのうちに多くの罪を作っているものです。なにげない一言で相手を傷つけたり、心の中で誰かを恨んだり……。

たつた一日の中で、こうした色々なことを繰り返している私たちですが、阿弥陀様はこうした私たちの小さな行いや微妙な心の中の動きも全てを見ています。そして阿弥陀様は私たちが善いことをしたり考えたらとても喜び、悪いことをしたり考えるととても嘆き悲しみます。私たちが思っているより、阿弥陀様は私たちが気にかけて心配し、励まそうとしてくれているのです。ですから、いつも阿弥陀様やご先祖様に見られていることを意識して恥ずかしくない行動を心掛け、善いことをする生活を送ってみてはいかががでしょうか。ぜひこの一年をこうした行動と気持ちを持って過ごしてみして下さい。そして、皆様が笑顔で元気にこの一年をお過ごし頂けることをお祈りしております。

梅窓院では毎年、元旦に修正会を行っております。修正会とは「正月に修する法会」という意味で、社会の平和と皆様の幸福を祈つて行われる新年の大切な法要です。そしてまた修正会には悔過^{けか}という自分の罪を悔い改める意味も含まれています。悔過^{けか}というのは、仏前に懺悔して自らの罪(仏教的には自らが気付き、悔い改めなければならぬ行い)を深く反省することを行います。

平成二十六年の梅窓院の修正会では、平和や幸福を祈ると共に自分が知らず知らず作ってしまった罪を悔い改めるというお気持ちで法要に参加して頂けたらと思います。

(法務部)

世界三大宗教のひとつ

イスラム教

私たちの梅窓院はご存知の通り浄土宗のお寺です。そして浄土宗は既成仏教宗派のひとつで、仏教は世界三大宗教に数えられています。

世界三大宗教とは私たちの仏教にキリスト教とイスラム教を加えたものです。この頃、テレビや新聞でよく取り上げられるのが、イスラム教の話題です。昨年の合同団参でイスラム教の国、トルコを訪れたこともあり、今号ではイスラム教に注目してみました。



マレーシアのお菓子箱のハラール認証。

られ、あるいは飾られているのでしょうか。ご存じでしょうか。

答えは「何もありません」。

イスラム教のモスクは礼拝をする場所であって、拝む対象は世界中どこでも拝んでもメッカで、そこがイスラム教の聖地だからです。イスラム教では仏教でいう拝む対象となる像や絵

のようなものはありません。

そして、一日に五度、イスラム教徒はその時に何をしても、決められた時間になると礼拝をします。礼拝の仕方は立ち上がった姿勢から腰を下ろし跪き、頭を地面に付ける礼の仕方、浄土宗でも上礼という礼拝が同じ様な動きです。人が畏敬の念を表す所作は似てくるということですね。

さて、「ハラール認証」(タイトル下参照)という言葉をご存知でしょうか。

イスラム教徒が安心して入れるレストランに与えられる、世界共通の認証です。そうです、イスラム教徒は、豚肉を食べて

はいけません。また、お酒も飲んではいけません。

こう聞いて、「えっ、あんなに美味しいものを」と思った方も多いでしょう。そうです、イスラム教徒は豚肉そのものももちろん、一度でも豚肉を切った包丁で調理した料理、一度でも豚肉をのせたお皿も使いません。アルコールを調味料として使うのもご法度です。

日本でこれを守るのはとても大変ですね。ですからこうした約束をちゃんと守っていると認められたレストランにだけ、このハラール認証が与えられるのです。

実はイスラム教徒の守るべき法はこうした生活の細々としたことを実に緻密に決めています。それはイスラム教の成り立ちに関係します。

イスラム教はユダヤ教、キリスト教の兄弟宗教で、一神教三兄弟の末っ子です。イスラム教が成立したのは六二二年で、アラビア半島のメッカで生まれ育った商人で、ある日神の啓示を受け予言者となったムハンマドが作った宗教です。先の三大宗教の中ではとても遅い成立で、すでに世界中に広がっていた一神教のユダヤ教とキリスト教の弟分にあたり、世界に三つしかない一神教の三番目がイスラム教になります。

両親を早く亡くしたムハンマドは、自らの商人としての経験から貧富の差を無くしたいとか、女性が迫害されている世の中の矛盾を無くしたいと考えていま

中央の写真はトルコの首都イスタンブールのブルーモスク(正式名称スルタン・アフメット・ジャーミイ)の写真です。左上右の写真は天草にある天草四郎メモリアルホールです。そしてその隣の写真が大本山増上寺の写真です。すべて編集部で撮影した写真ですが、そのどれもが大きな建物です。宗教は信仰する人々が一堂に集まることが多いので、こうして大きな建物が建てられるのです。では、こうした建物の中には何があるのでしょうか。

仏教のお堂では仏像や祖師方が祀られています。梅窓院でいえば、みなさんもお存知のように、本堂には阿弥陀様、観音堂には観音様、祖師堂には法然上人が





大本山増上寺大殿



天草、天草四郎メモリアルホール

した。そのムハンマドに神が降臨し、どんな解釈も入っていない神の言葉としての『コーラン』が成立したのです。そしてそれがイスラム教の聖典となりイスラム法が作られイスラム教が完成しました。

シャリーフと呼ばれるイスラム法は時代によって修正が加えられ今に至っていますが、実に細かいことが決められているのはこうした成り立ち、つまり、公平を重んじたり、信徒間の一体感、神への奉仕を大切に、必要に応じて修正してきた

表① 六信五行

■六信(以下の六つのことを信じること)

●唯一全能の神	●啓典	●来世
●天使	●予言者	●定命

■五行(以下の五つのことを行うこと)

信仰告白	アッラーだけが神でムハンマドがその使徒であると証言する
礼拝	一日五回、決められた時間にメッカに向かって礼拝する
喜捨	一定以上の財産家が困窮者支援などにその2.5%を喜捨する
断食	ラマダン月の日中、一切の飲食を断つ
巡礼	一生に一度はメッカに巡礼する

参考資料 アジアにおける三大宗教と無宗教が人口の半分以上を占める国(2012年)

■イスラム教徒が人口の半分以上を占める国

イラン	99.0%
アフガニスタン	99.0%
モルディブ	98.4%
パキスタン	96.4%
バングラディシュ	89.8%
インドネシア	87.2%
ブルネイ	75.1%
マレーシア	63.7%

■キリスト教徒が人口の半分以上を占める国

東ティモール	99.0%
フィリピン	92.6%

■仏教徒が人口の半分以上を占める国

カンボジア	96.9%
タイ	93.2%
ミャンマー	80.1%
ブータン	74.7%
スリランカ	69.3%
ラオス	66.0%
モンゴル	55.1%
日本	36.2%

■無宗教者が人口の半分以上を占める国

北朝鮮	71.3%
日本	57.0%
香港	56.1%
中国	52.2%

※%はその国の人口に対する割合
※資料はPew Research Centerより

ているからです。

ですから、イスラム教信者であるムスリムには、**六信五行(表①)**があり、五行の中にはラマダン、そう有名な断食月間です、そして富めるものによる貧しい者への喜捨、一日五度の礼拝、メッカへの巡礼などがあります。また邪な恋を生まないように女性ができるだけ肌を見せないこと、銀行で利息を取らないことなど、実社会に沿った具体的な決まり事が多いのが特徴です。

昨年からイスラム教のスニ派とシー

ア派の対立によるテロが世界を騒がせていますが、もともとは仲良く平等な世界を目指す宗教ですから、こうしたテロを起こすのは一部の信者たちだけです。トルコはイスラム教の国ですが、国教にはなっておらず、同じイスラム教でも少し決まりが緩いイスラム教国で、そうしたトルコの人たちにとって、度重なるテロのニュースでイスラム教が過激だと思われるのは残念なことのようにです。

今このイスラム教の信者は世界的に急増しています。表②にあるように、三大



トルコ、イスタンブールのブルーモスク

表② 世界人口の三大宗教と無宗教分布の推計結果

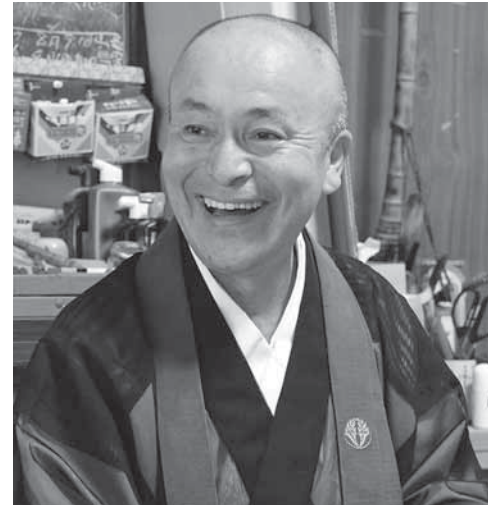
宗教	1800年	1900年	2000年	2012年	2025年
キリスト教	204,980 (22.7%)	558,131 (34.5%)	1,991,602 (32.5%)	2,325,507 (33.0%)	2,727,153 (34.1%)
イスラム教	90,500 (10.0%)	199,818 (12.3%)	1,279,859 (20.9%)	1,583,783 (22.5%)	1,951,389 (24.4%)
仏教	69,400 (7.7%)	126,956 (7.8%)	418,963 (6.8%)	473,818 (6.7%)	546,590 (6.8%)
無宗教	300 (0.0%)	3,029 (0.2%)	666,060 (10.9%)	661,288 (9.4%)	636,826 (8.00%)

※単位は千人。%は世界人口に対する割合。
※資料はWCD(2012)、Johnson and Barrettより

宗教の中でとても増えているのは、教えがシンプルで具体的な決まり事が多いからなのかもしれません。



遣迎寺本尊の前での記念写真。右から 住職、中島住職、お孫さんの君(小1)と 長女(5カ月)、上人。



笑顔がトレードマーク(?)の 上人。

梅窓院の寮に住みながら大正大学に通っていた学生の多くは全国各地にある浄土宗寺院の後継者でした。そして、その寮仲間が中心となって作られた梅真会。その会員は今でも梅窓院の各種法要や行事を支えて下さっています。今回は梅真会シリーズで、熊本県天草の遣迎寺 上人にお話を伺いました。お嬢様も尼僧さんとして梅窓院に勤められていました。

◆本日はよろしくお願ひ致します。さっそくですが、いつごろ梅窓院に随身されていたのでしょうか。

住職(以下) 昭和41年から43年までです。大正大学の1年生から3年生までで、4年生の時は板橋にアパートを借りて卒論に集中しました。

◆大正大学での学部と卒論は何でしたのでしょうか。

学部は文学部で専門は中国学でした。とはいえ、僧籍と教職の資格を取るための勉強もしていました。

◆中国学とは珍しいですね。

そうですね。お寺の仲間の多くは仏教学とか宗教学でしたね。卒業論文は遼の武帝ですが、実は浄土教の中国五祖の時代の王で仏教をととても大事にしてくれた王です。そして五祖の中の三祖が皆さんもご存じの善導大師です。法然上人が夢中で対面し、浄土宗を開宗する一文を書かれた高僧で、ほとんどの浄土宗寺院では、そのお像が法然上人像と対で祀られています。

というように卒論のテーマもちゃんと浄土宗と関連しているのですよ。

◆そうですね。珍しいのではなく、切り口を変えて浄土教を研究されたのですね。失礼しました。

いいえ、でも4年生でお坊さんの資格を取った後も一年大学に残り倫理学を勉強しました。やっぱり珍しいのかもしれません(笑)。

◆住職はもともとお寺生まれですか。

はい、父は一本釣りの漁師の五人兄弟の末っ子で、口減らしで9歳の時に寺の小僧に出されました。縁あってこの遣迎寺に落ち着いたのは42歳でした。私は、僧侶の長男として生まれ、父と同じ、熊本の鎮西高校、大正大学へと進みました。

◆鎮西高校は浄土宗の学校ですね。

はい、今も昔も宗門校(現 宗立学校)の一つです。

◆大正大学へ入学され梅窓院に随身されたきっかけを教えてください。

先代住職である父の縁故でした。当時は真哉先生ですね。青山をはじめ、東京の印象は強烈で、まさにカルチャーショックでした。

◆梅窓院での生活はいかがでしたか。

この囲む人々に登場された先輩方も言われていますが、それ

は大切にしてくれました。勉強しながらの寺の手伝いは大変ですが、学費と生活費などすべてを面倒見てもらえ、お小遣いまで頂きましたからね。

◆梅窓院時代の思い出と言いますと……。

お金も時間もなかったのにパチンコですね(笑)。なんとか時間を見つけては郵便局の前にあった「つばめ」というパチンコ屋に行っていました。先輩でも好きな人がいて、最初はその先輩に連れていかれました。

◆パチンコ屋ですか。いまの青山では思いも寄りませんね。

本当ですね。それとお墓参り用のしきみを作っていた さんという小父さんが、仕事を手伝うと、その御礼に渋谷の焼き鳥屋に連れていってくれて、懐かしいですね。

それと寮生6人全員でたまに渋谷のどんかつ屋にいったのも忘れられない思い出ですね。店の名前は忘れましたが。

◆このコーナーで梅真会の方々に登場頂いていますが、皆さん思い出の多くが食べ物に関係しているのです。お供えのバナナだったり、おひつに残ったご飯だったり。やっぱり当時の学生さんは良く食べたのですか。

今の若い学生はそうでもないようですが、僕たちの頃はお腹いっぱい食べられることが嬉しかった時代でした。

◆ご住職をされているお寺の話をお聞かせ下さい。

ここ天草は江戸時代初頭、家光の頃に天領となり、天草四ヶ本寺が制定されました。そのうち二ヶ寺が浄土宗で崇圓寺と圓性寺です。その圓性寺の末寺のひとつがこの遣迎寺です。今でも天草には庵とか教会という名前のお寺を含めると三十七ヶ寺も浄土宗の寺院があります。

◆天草は大きく上天草島と下天草島でそれほど大きくないかと思いますが、ずいぶんたくさんありますね。

ご存じのように天草四郎などキリスト教の信者が多かったこともあり、それに対抗するように寺院がたくさん建立されたようですね。

◆徳川時代は禁教として取り締まられていましたね、なるほど。

最後に娘さんのお話を伺いたいのですが……。

うちは四人娘で、長女が大正大学編入在学中の2年間随身して梅窓院さんにお世話になりました。今は結婚して小学校1年生とまだ1歳にならない2人の男の子の母親として頑張ってくれています。いずれは長女にこの寺を継いでもらうことになるかと思います。

◆そうですね、それでは娘さんのお子さんがもし大正大学へ来られて、梅窓院に来て下されば、親子三代のご縁になりますね、楽しみにしています。

本日はありがとうございました。

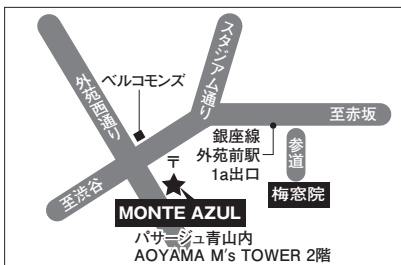
お知らせ このコーナーの梅真会シリーズ第2回目(『青山』第63号)にご登場頂きました宮城県気仙沼の浄念寺 遷化されました。東日本大震災の復興でご活躍された上人のご冥福を心より祈念申し上げます。合掌十念

上人が昨年9月に

MONTE AZUL (モンテアズル)

今回は「欧州の食文化を日本に伝えたい」という想いから始まった食品加工メーカーの直営店レストラン「モンテアズル」に伺いました。「モンテアズル」という店名は、スペイン語で、そう、「青山」という意味です。
 昼は欧州料理を中心としたブッフェスタイル。90分1800円コース、平日はお勤めの方にも嬉しい40分1200円コースもお選び頂けます。ブッフェメニューは、店長一押しのパエリ

アや窯で焼き上げたピザ、そして欧州から輸入した生ハムや種類豊富なデザートで、全て食べ放題です。
 夜は500円均一のタパス(小皿料理)や月替わりでその季節の旬の素材を使用したパエリアなどが頂けます。自社輸入しているというプロシユート(ハム)やワインもおすすすめです。パーティメニューも3名様からあり、14名様まで入る個室もあります。ぜひとも青山で欧州の味を味わってみてはいかがでしょうか。



営業時間／ランチ11:00~16:00(L.O.14:30)
 ディナー18:00~23:00(L.O.22:00)
 定休日／年末年始 席数／40席
 住所／東京都港区南青山2-27-18
 PASSAGE AOYAMA 2F
 TEL／03-6807-0654



▲パエリアやパスタなどが並ぶブッフェ台



▲種類豊富なデザート



◀オープンキッチンで調理されている

青山俳壇

選者「ウェブ俳句通信」編集長

大崎紀夫

◎特選

○秋暮れて秩父に残る絹の道

◎入選

○殉教の島に雲なき秋の空

○木犀の香に誘はれて散歩道

○セスナ機の音は空ゆく秋の音

○秋寒の夜明けに母は旅立てり

○秋の夜半海へとつづく月の道

○落栗のこんなに遠い所まで

○金網の蔓に通草の熟るるかな

◎選者詠

○塚山といへるへ登りうろこ雲

大崎 紀夫

〈ワンポイントアドバイス〉

俳句を詠むときに時に擬音を使うことがあります。(鳥わたるこきこきこきと鐘切れば 秋元不死男(せりせりと薄氷杖のなすまに 山口誓子)などは擬音を使った句として有名なものです。(こぼるこぼると白鳥の夜のごま)という森澄雄の句もよく知られています。いずれも詠まれた景が擬音によって鮮やかにイメージされる句です。擬音の上手な使い方を考えてみてください。

投句募集

今回は「冬の季語」でご自由にお詠み下さい。1月11日(土)を締切、平成26年3月発送の『春彼岸号』にて発表致します。住所、氏名をお書き添えの上、ご応募下さい。尚、選者が添削し掲載する場合がございますのでご了承下さい。皆さまの投句をお待ちしております。

〒107-0062 港区南青山2-26-38
 梅窓院「青山俳壇」投句募集係

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。

ウェブ編集室
 電話03-5368-1870

第五十三回

食は命

食養研究家
 武鈴子

「葱」は食べる風邪薬

気温が低くなるにつれて甘みが増し、おいしくなる葱。寒い日のなべ物には欠かせません。ピリッとした辛味が食べると血行をよくして体を温めるため、昔から風邪の引きはじめに「葱みそ湯」が民間療法として愛用されてきました。白ねぎ10cm位をきざみ、みそ 小さじ1杯、おろし生姜 小さじ半分といっしょにお茶碗に入れて、熱々のお湯150cc~200ccをそそいで飲むと、ぼかぼかと体を温めて、汗を出し、風邪を退治してくれる“妙薬”です。

葱の白い部分は「葱白」といい、漢方薬の生薬として、風邪の初期症状、冷えによる腹痛の緩和に用いられています。

食物の専門書「本草綱目」にも、葱は「風邪の発熱、悪寒を治す。冷えによる腹痛を治す。」と記載されています。また、江戸時代の「食物和歌本草」には「ひともしは まなこの精を ますものぞ 中を補い 魚の毒消す」(葱は目の力を増すもので、脾臓や胃の働きを補って、魚毒を消す)と詠まれています。視力低下、胃の気力不足のときにも、葱は食べる薬。

江戸時代には【臭和】という葱の料理があります。生葱をきざんですり鉢ですり、葱3対みそ7位に、ごまを加えてすりませ、酒やダシでゆるめた衣のことで、これで野菜類を和えた料理です。「筍の臭和」もあり、筍を好みに切り、油で揚げて、「臭和」で和えた料理です。これに粉唐辛子を少し振りかけて食べます。

風邪やインフルエンザの予防に、手足の冷えや腹痛、下痢に、寒い季節のさまざまなトラブルは葱におまかせを!



完成 ペット供養塔 無礙光塔 むげこうとう —ペットも大切な家族の一員—

梅窓院山門横にペット供養塔無礙光塔が完成致しました。

無礙光とは十二の働きをする阿弥陀仏の光明の一つで、人々の苦しみを取り除き、安らぎを与える働きをする光のことです。

資料請求・お問い合わせはこちらまで

梅窓院墓苑
(株式会社日本エキスパートシステム)
電話番号 03-3404-1230



行事予定

第61回 念仏と法話の会

2月25日(火)

時間 11時20分～(受付11時より開始)

お齋/別時念仏会/法話/茶話会

法話 「命をつなぐ」

講師 秋田教区 九品寺

津村 信徳 上人

お檀家さんに伺いました

「秋彼岸について」

様

平成25年9月

秋彼岸会法要にて

春と秋のお彼岸には毎回来ています。写真コンクールの写真を見てきてどれも素敵でしたが、特にイチヨウ並

木の写真が良かったなと思いました。お呈茶も美味しいです。お茶はなかなか本格的な体験はできないので、こんな機会があると嬉しいです。

「ご縁を感じます。」

様

平成25年10月

念仏と法話の会にて

様々な方のお話を聞けるのが良いです。以前梅窓院にいたご僧侶ということで、もしかしたら昔に会っているかもしれないと思うと、ご縁を感じ温かくなります。たくさんのご僧侶とお話できるのも楽しみです。

発行/梅窓院

発行日/平成26年1月1日

発行人/中島 真成

編集/青山文化村

住所/〒107-0062

東京都港区南青山2-26-38

電話/03-3404-8447

FAX/03-3404-8436

ホームページ/<http://www.baisouin.or.jp/>

E-mail/jodo@baisouin.or.jp

題字/中村康隆元浄土門主

総本山知恩院第八十六世門跡

平成26年 年間行事予定

- ◆修正会 1月1日(水)
- ◆第61回 念仏と法話の会 2月25日(火)
- ◆春彼岸会法要・寄席・物産展 3月21日(金)
- ◆はなまつり 4月5日(土)～8日(火)
- ◆団体参拝旅行 5月 久留米 善導寺
※詳細は春彼岸号にてお知らせ致します。
- ◆大施餓鬼会法要 5月17日(土)
- ◆開山忌法要 6月14日(土)
- ◆第62回 念仏と法話の会 6月19日(木)
- ◆盂蘭盆会法要 7月13日(日)
- ◆秋彼岸会法要・寄席 9月23日(火)
- ◆文化講演会 10月開催予定
- ◆十夜法要・芋煮会 11月15日(土)
- ◆M・ファン・デン・フック ピアノリサイタル 11月開催予定

※予定は変更になる場合もございます。ご了承下さい。

平成25年度 後期 仏教講座のご案内

全講座▶午後6時～8時 受講料▶無料 場所▶祖師堂

講題/続々・お経を読む

講師/阿川 正貫 先生(浄土寺住職、大正大学講師)

- 第3回…3月 3日(月) 善導大師の『往生礼讃』より③

講題/釈尊の最後の教え —『仏遺教経』を読む—

講師/新井 俊定 先生(天然寺住職)

- 第2回…1月28日(火) 『仏遺教経』2
- 第3回…3月 6日(木) 『仏遺教経』3

講題/大乘仏教を読む

講師/勝崎 裕彦 先生(大正大学学長、香蓮寺住職)

- 第2回…1月 9日(木) 如来寿量品第十六の教え
- 第3回…2月20日(木) 常不輕菩薩品第二十の教え

講題/法然上人のみ教え —『選択集』を読む—

講師/林田 康順 先生(大正大学教授、大本山増上寺布教師、慶岸寺副住職)

- 第2回…1月20日(月) 『選択集』第8章 救いの光② —三縁—
- 第3回…2月12日(水) 『選択集』第8章 三つの心① —至誠心—

講題/地域社会と真宗 —生活に生きる信仰と儀礼—

講師/本林 靖久 先生(真宗大谷派僧侶、大谷大学、佛教大学 講師)

- 第3回…2月 7日(金) 無墓制と納骨信仰

※各講座第3回目の最終講座は、後半、茶話会となります。
講師の先生方や受講生同士、この機会に交流を深めて下さい。